

美空～MISORA～

第197号

発行日：2025年12月26日

発行者：NPO 法人 電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

目次 INDEX

- ・活動報告
- 沖縄活動委員会・東京理事会
- 合同理事会・北海道支部活動委員会 1
- ・NPO 無電柱ネット 年間活動報告 5
- ・無電柱化を推進する市区町村長の会
- R7-3 勉強会～国交省道路局講演を中心に～ 8

特定非営利活動法人
電線のない街づくり支援ネットワーク
THE NETWORK FOR NON POLE COMMUNITY

【活動報告】

2025年12月3日(水)17:00～17:40

沖縄活動委員会

場所：「みんなの貸会議室」那覇泉崎店 WEB:Zoom
参加者：16名

1. 伊志嶺支部長より

- ・今年度は、シンポジウムを開催することができた。来年度も検討したい。
- ・新規の会員獲得がなかなか得られず残念。
- ・来年は沖縄県知事選がある。その動向も注視したい。沖縄は、政治と経済が近いので。
- 来年度の沖縄支部の活動方針を1月末くらいまでにまとめてほしい(井上事務局長)。

2. 来年のセミナー・シンポジウムについて

- ・竹富島を中心とした先島諸島・八重山諸島の無電柱化の現状・展望についてのセミナー・シンポジウムを検討中。

3. 事務局報告

- 11/11 「無電柱化の日」セミナー
- 11/21 無電柱化を推進する市区町村長の会 R7-3 勉強会の国交省道路局の内容説明
今後の予定

4. 次回活動委員会の予定

- ・未定

2025年12月4日(木)17:00～17:20

東京理事会

場所：住友林業会議室 M-6 WEB:Cisco Webex
参加者：7名

1. 本日の東京活動委員会の確認

- 2. 2月の活動委員会について(2月12日(木)18時～)
国交省の部会の概要報告…野原理事にお願いする。
前川理事の海外事例報告

3. 東京支部の年間計画、理事改選に伴う次期支部長について

4. オフラインでの勉強会・セミナーをする件

5. 次回理事会 後述の合同理事会に同じ。

2025年12月4日(木)17:30～18:00

合同理事会

場所：住友林業会議室 M-6 WEB:Cisco Webex
参加者：8名

1. 事務局報告

- 11/13(木) 民間SWGの報告
- 11/21(金) 無電柱化を推進する市区町村長の会勉強

11/28(金) 第12回全国技術委員会 OSAKA

12/3(水) 沖縄活動委員会

12/4(木) 東京活動委員会

12/12(金) 北海道活動委員会

2. 無電柱化全道一斉パネル展のパネル製作費の承認について

3. 来年5月開催予定の北海道フォーラムの企画案の件で

4. 次回の予定

1月15日(木) 東京理事会 17:00～17:30、合同理事会 17:30～18:00(WEBのみ)

5. 補足(東京活動委員会での来年の無電柱化推進展のJMAさまの説明において)

◆JMA(一般社団法人日本能率協会)さまへのNPOからの提案

1) 国交省を巻き込めないか。←来場者が来る要素になる。

2) コンストラクションステージの講演を3件くらいは復活させてほしい。

・来場者は、講演目当てで来ている場合も多い。国交省や東京都の場合だったら150名のステージだったら満員・立ち見になる可能性が高い。

・今年の無電柱化推進展での当NPOのブースで展開したミニセミナーで実績あり。

・東京都が最近積極的に進めている無電柱化政策や次年度から始まる国交省の第9次無電柱化推進計画はひとつを呼ぶ講演になるので、是非実現させてほしい！

3) 無電柱化に関する企業がメンテナンス・レジリエンスの別の展示(建設防災・資材展など)に流れている傾向があるので、無電柱化推進展と隣接して、来場者が関連して見学できるようにする。

→NPOとしてもそのほうが連携を諮詢されるし、来場者は無電柱化と建設資材の境界などあまり気にしていない。

4) メンテナンス・レジリエンス TOKYOという展示名では無電柱化推進展がかすれてしまう。

・以前は、無電柱化推進展単独のポスターだった。

・SNSからの発信を更に拡大させる工夫を。

5) NPOからの意見・質問に対するJMAさんの回答

・昨年のメンテナンス・レジリエンスの来場者はやや減。出展数は横ばい。

・コロナ後で、傾向に変化がみられる。参加者はトレンドで動く傾向にあるのと、出展の展開がオンラインで検討する企業が増えている感じを感じる(出展の2極化)。

2025年12月12日(金)17:00～17:55

北海道支部活動委員会

※11/4～11/10にかけての「令和7年度 無電柱化の日パネル展」について詳細な議事録を作成いただきました。

会場:Zoomミーティング(Web、(株)長栄通建より発信)およびNPO 北海道支部

参加者:18名(北海道支部:3名、Web:15名)

1. 開会の挨拶(村山支部長)

本日の議題等について

2. 「令和7年度 無電柱化の日パネル展」主催者報告

(北海道開発局 建設部 道路維持課 防災第1係 矢野係長)

「令和7年度 無電柱化の日 パネル展の報告」資料を基に説明

○令和7年度パネル展の開催状況

- ・日時:R7.11/4(火)～11/10(月)10:00～16:00
- ・会場:札幌駅前地下歩行空間(チ・カ・ホ)北1条イベントスペース
- ・全道:30箇所(昨年度 31箇所)にて無電柱化の日イベントを開催(各地域のパネル展では写真掲載を行い、チ・カ・ホではわが街のビフォーアフターパネルにて人気投票を行った)

○イベントのPRとして、チ・カ・ホ版・全道版・本省版の3種類のポスターを掲示

○報道(新聞)発表

- ・無電柱化の日パネル展(チ・カ・ホ):新聞記事(建設行政新聞、他2社)が掲載
- ・全道開催のパネル展:帯広毎日新聞

○パネル展示

- ①わがまちの無電柱化パネル(49市町村 56枚の無電柱化事例写真)
- ②Before & After パネル(33市町村 35箇所の無電柱化前後写真)
- ③無電柱化の目的・手法等パネル
- ④新たに、防災と無電柱化パネル
- ⑤チ・カ・ホのイベント広告パネル
- ⑥出前授業の取り組み、電線類地中化の仕組み

○展示物その他

- ①管路材等の展示3種
- ②新たに、ぬいぐるみ展示(株)北海道近代設計より提供

○パネル展の状況

- ・カウントした来場者数:9,884人
- ・開催時間外も同じ比率で見ていただけたら:なんと24,837人来場

○Before & After パネルとシール投票

- ・今年の有効投票数:1,868票、昨年投票数:2,056票。参加者に無電柱化カード配布
- ・昨年より投票数が減少した要因として、土曜日の降雪による来場者数減少の可能性あり
- ・第3位 143票:倶知安町／蘭越ニセコ倶知安線
- ・第2位 157票:小樽市／小樽運河沿い(小樽港線)
- ・第1位 158票:札幌市／美園1条6丁目(道道札幌環状線)

○体験イベント

- ・電柱のない街ミニチュア展示:寒地土木研究所地域景観チーム 沢山の子供たちが遊ぶ
- ・VRで見る電柱がない街の景色:北海道大学参加 30名程度
- ・AR(拡張現実)でみる歩道下にある埋設物の景色:ジオ・サーチ(株) 参加 20～30名程度
- ・マインクラフトで無電柱化を学ぼう:土・日・月に実施 参加 80名程度
- ・無電柱化クイズ(○×クイズ):子供用もあり 全問正解者にホッカイロ提供 参加 130名程度
- ・折り紙・ぬり絵体験:今年新たに実施(11月10日(月)のみ開催) 参加 10名程度

○パンフレット、ノベルティ

- ・昨年同様のパンフレットに加え、今年新たに「NTTクリアアイル」が人気

○アンケート結果

- ・有効回答数 1,226件(前年比 1.3倍 前年度 917件)
協力者に抽選で、スマホスタンドまたはエコバッグ提供
- ・問1:年齢
→40代～70代:全体の74%、10代以下～30代:225件に増加(R6年度:153件)
- ・問2:回答者の主に育った地域
→道内:87%、道外:12%
- ・問3:回答者の主に育った地域では、無電柱化が進んでいると思いますか?
→どちらとも言えない・思わないが:74%(R6年度:74%)
- ・問4:無電柱化は進めるべきだと思いますか?
→思う:979件(80%)で、無電柱化への理解が進んでいる
- ・問5:無電柱化について興味がわきましたか?
→興味がわいたが 1,002件(82%)で、無電柱化の啓発活動の効果あり
- ・問6:どの展示がよかったです?(複数回答)
→717票:わがまちの電柱のない風景
→479票:わがまちの風景(Before & After)
- ・問7:パネル展の展示内容のわかりやすさについて教えてください
→非常にわかりやすい・わかりやすいが、1,226件中 1,100件(90%)
- 非常にわかりにくいは、1,226件中 2件(0.2%)

- ・問8:その他、パネル展をご覧になった感想(一部抜粋)

【無電柱化への意見】

- ・無電柱化が災害時の避難経路に重要な役割を果たしていることが分かった
- ・検討されてはいたが、あまり進んでいないと感じ、私たちも関心を持つ必要がある
- ・このような活動を広めて国が予算を増やし、無電柱化を進めるべき
- ・風景に電柱はつきものだが、空を眺めて電柱がないと綺麗
- ・北海道の冬の積雪で、安全面からも無電柱化が増えると良い
- ・街路樹を切らないでほしい

- ・地震や津波の災害後、すぐに復旧するかの不安

【パネル展への意見】

- ・無電柱化カードの試みが面白く、もっと知られるとよい
- ・展示を見て無電柱化が行われていることを知った
- ・電柱がある町の被災写真もあると、より説得力のある展示になる
- ・マインクラフトで楽しく勉強できた
- ・VR・AR や PC ゲームの利用など、大人から子供まで楽しめるよう工夫され感心した
- ・展示内容および目的がわかりやすく、サイト等でも見せてほしい
- ・ポスターの文字数が多いので、少し余白があると見やすい
- ・立体模型や横断図があると無電柱化の仕組みがわかりやすい

○終わりに

※更なる無電柱化への理解を深めていただくため、令和8年度も新しいアイデアを取り入れながらパワーアップしたパネル展を開催します。

令和8年度も皆様のご協力を何卒お願いいたします

3.「令和7年度 無電柱化の日パネル展」支援報告

(北海道支部 佐々木さま)

「2025 年「無電柱化の日 パネル展」NPO 法人 電線のない街づくり支援ネットワークの実施報告(要約)」、「2025 年「無電柱化の日」チ・カ・ホ会場 NPO 支援 人員配置結果(要約)」資料を基に実施内容、留意点、総評等を説明

○日程・会場・人員支援

- ・「2025 年「無電柱化の日」チ・カ・ホ会場 NPO 支援 人員配置結果(要約)」資料で、支援状況を説明
- ・9日(日)・10 日(月)に、NPO 本部より、井上ご夫妻にご支援いただき感謝いたします
- ・8日(土)、9日(日)から 10 日(月、無電柱化の日)において、全体的に人数が多くかった

○NPO の会場の設営作業・終了作業

- ・人気投票用イーゼルとボードを固定する際、時間を要したので固定方法を再検討
- ・終了時にパンフレットを専用ホルダに入れパネルに吊り下げた。ホルダに「ご自由にお持ちください」の記述があつらよい

○パネル展示および支援内容等

- ・今年はパネル展示やアンケート調査等において、(株)北海道近代設計と共同で対応できた
- ・「無電柱化の日 パネル展」実施の声かけで、興味を持ってもらい、呼び込んだ
- ・11 月 10 日が「無電柱化の日」であることを声かけてアピール
- ・人気投票や○×クイズの実施を声かけすることで、実施内容を認知させ参加率を上げた
- ・人気投票では Before & After パネルを見ずに、無電柱化カードだけを見て投票する人が割と多く、人気投票実施の表示、カードのデザイン、見せ方等の検討が必要と感じる

- ・今年初めて NPO が災害・防災と無電柱化をパネルで展示、現状の一部を知つてもらった。閲覧者は少なかった。また、パネルの一部に誤字があり交換した

○アンケート調査と抽選

- ・想定以上の協力あり。アンケートの集計結果の公表が必要では?
- ・日々のアンケート回答者数、抽選結果を把握し、途中で抽選率や抽選基準の変更は避けたい

○パンフレット等の配布

- ・NPO パンフレット、クリアファイルの配布数は、昨年より少ない

○「無電柱化の日」であること、イベント実施の呼びかけ、景品の表示等

- ・「無電柱化の日パネル展」の声かけは、実施を周知してもらうために非常に大事
- ・アンケート、イベント等の声かけは、実施内容の周知、参加率向上につながり効果大。また、何をやっているのか、なにが当たるのか、何がもらえるのかを明確にすれば、もっと向上
- ・人気投票結果は、後日、北海道開発局のホームページで公表されることの表示が必要

○総評

◇全体として

- ・今年はパネル展示対応やアンケート調査等において、(株)北海道近代設計と共同で対応できた
- ・「無電柱化の日 パネル展」全体:事故もなく無事終了
- ・パネル閲覧者も多く、午後4時以降(展示終了以降)もパネルを見ている人が多いので、パネル展示は成功
- ・NPO の展示として、防災と無電柱化のパネルの展示で、一部だが現状を知つてもらえた
- ・全体的人員配置:8日～10 日は人員が多すぎる感あり
- ・NPO の支援者数:平日は常時2名で適切。9日・10 日(日・月)は、2名支援増加、1名減でも良かった
- ・開始前・終了後の設備・備品の搬入・搬出時は、事故の無いよう通行者に十分留意

◇検討・改善

- ・平日(特に今年は 10 日:無電柱化の日)の子ども向けイベントは、ほとんど子供の通行が無かったので、集客が難しく体験イベントを再考
 - ・AR,VR の閲覧・参加者が少ないように思われたので、もっと参加してもらう工夫が必要
 - ・人気投票で、無電柱化カードだけを見て投票する方が割と多く、人気投票を実施していることの表示およびカードのデザインや見せ方に工夫が必要
 - ・「何のイベントをやっているのか」等の表示・声かけで、認知度や集客が見込まれる
- 11 月 10 日は無電柱化の日、無電柱化のパネル展を実施、人気投票を実施、アンケート調査の協力、無電柱化クイズ、…
- ・「どんなプレゼントや景品が当たるのか」の表示・声かけで、協力・参加率が上がる

→抽選でスマホスタンドかエコバッグ、無電柱化クイズの全問正解者にホッカイロ、人気投票で無電柱化カード、アンケートに答えると抽選でスマホスタンドまたはエコバッグ、ボールペン進呈、…

・アンケート調査、人気投票の集計結果をどのように公表するのか確認

⇒矢野係長より：当会議終了後、「投票結果やアンケート結果は必要な情報を整理した上でHPにて公表を予定しています」との回答あり

4. NPO 本部より、今後の予定等について(井上事務局長)

「事務局報告」資料を基に説明

○今後(2026年)の予定

・2026/1/15(木) 東京理事会・合同理事会

17:00～18:00 (WEB 運営)

次年度のNPOの活動方針を決める

・2026/2/6(金) 第13回全国技術委員会 OSAKA

15:00～16:45 大阪市立生涯学習センター 5階 第7研修室

・2026/2/12(木) 東京活動委員会 18:00～19:15

○2025/11/11「無電柱化の日」セミナーでの講演紹介

・講演1「デンマークの無電柱化の歴史と都市空間の現在」
寒地土木研究所地域景観チーム主任研究員 岩田圭佑氏
・講演2「AIデータセンターが拓く都市変革と無電柱化の未来 無電柱化は、AI時代の競争力ある都市基盤への投資である」

京都大学大学院教授 経営管理研究部&工学研究科都市社会工学専攻 大庭哲治氏

・講演3「地方の無電柱化推進計画の策定の取組_静岡県沼津市」

公益財団法人 日本道路交通情報センター 副理事長・当NPO顧問 森山誠二氏

○2025/11/21 首長会 R7-3 勉強会の手伝い

5. 無電柱化の日イベント、青森県東方沖地震等について

(村山支部長)

○「無電柱化の日パネル展」について

・北海道支部で、千島・日本海溝の巨大地震による津波と無電柱化の関連性を可視化する目的で、A0パネルを4枚制作・展示。これらは、北海道庁まちづくり局、北海道開発局道路維持課との協議を経てNPO本部(事務局・理事会)の承認済み

○「青森県東方沖地震(12/8 M7.6)と後発地震注意情報の発表を受けて」

・気象庁・内閣府より、「北海道・三陸沖 後発地震注意情報」が初めて発表され、

①北海道・三陸沖の大地震発生確率が「数日～1週間のうちに数%程度」→10倍に上昇

②道内182市町村の対象地域、道庁から住民の事前避難や備蓄等の再確認が明示

特に釧路・根室・厚岸などは、津波の第一波が最短8～15分で到達すると想定

○青森県東方沖地震と後発地震注意情報のなか、北海道 フォーラム2026に向けて

・「命を守る無電柱化×津波避難」のテーマに直結し、次の構成を予定

①高齢者・福祉施設利用者の避難課題(DEI・福祉防災)

②地震直後の車両避難に対応した無電柱化道路の整備方針

③新技術による迅速施工と行政連携のモデル化

④パネル展示による地域啓発・政策提案

今回制作したパネル4枚は、このフォーラムの基盤資料として展示・活用予定

○後発地震という考え方

・後発地震とは、前震や前段階の地震の後に、より大きな本震や別の震源域での大地震が連続して発生すること。これは、複雑なプレート境界で構成される日本列島周辺で、隣接する震源域同士が相互に影響しあい、誘発地震や連動型地震が生じる可能性を意味する

○東日本大震災の位置づけ

・2011年3月9日：三陸沖でM7.3の地震(前震)

・2011年3月10日：M6級の地震が複数発生

・2011年3月11日：東日本大震災本震(Mw9.0)が発生
※本震の2日前にM7級の前震が発生しており、後発地震にあたる

○後発地震対応に求められる防災施策

◇課題 必要な対応

・津波到達までの避難時間が短すぎる 事前避難・早期警報・高台移転の検討

・高齢者・福祉施設利用者の避難が困難 車両避難・福祉避難所・避難マニュアル整備

・冬季の避難困難(積雪・凍結) 除雪確保・無電柱化避難道路・電源確保

・避難経路の寸断リスク 無電柱化・電柱倒壊防止・電源喪失対策

○今後の提案：防災とインフラ整備を統合した“命を守る地域計画”へ

・防災・福祉・都市インフラの分野を超えた連携が必要

・後発地震のリスクを前提に、避難×無電柱化×新技術を統合した防災まちづくりモデル構築

・北海道沿岸市町村を対象としたパイロットプロジェクト(防災行政型無電柱化)の検討



北海道支部活動委員会会場の様子（モニター画面より）

NPO法人 電線のない街づくり支援ネットワーク

特定非営利活動法人
電線のない街づくり支援ネットワーク
THE NETWORK FOR NON POLE COMMUNITY

理事ならびに、会員・関係者の皆様、今年1年間ご支援ならびにご協力をいただき、ありがとうございました。
本年の振り返りをさせていただきます。

1月15日 東京理事会・合同理事会(写真)

1月24日 第8回全国技術委員会 OSAKA



2月3日 春季インターン開始



**2月7日 国交省、R6-3 無電柱化推進技術検討会
(低コストWG)**

※R6-3は、令和6年度第3回の略。以下同。

2月12日 東京理事会・合同理事会・東京活動委員会

2月13日 沖縄活動委員会

国交省、R6-2 無電柱化推進技術検討会

2月14日 北海道活動委員会

2月25日 国交省、R6-1 無電柱化推進のあり方検討委員会

3月12日 東京理事会・合同理事会(写真)



3月25日 第9回全国技術委員会 OSAKA (写真)

年間活動報告 2025



4月11日 沖縄活動委員会

4月22日 東京理事会・合同理事会・東京活動委員会

5月7日 沖縄活動委員会

5月13日 北海道活動委員会



5月22日 合同理事会・東京理事会

5月30日 第10回全国技術委員会 OSAKA



6月2日 無電柱化推進まちづくりセミナーin 沖縄



6月5日 無電柱化を推進する市区町村長の会定期総会



6月 16日 国交省、R7-1 無電柱化推進のあり方検討委員会

6月 20日 NPO 合同理事会
第 18 回 NPO 社員総会



総会セミナー



6月 24日 東京理事会・東京活動委員会

7月 17日 東京理事会・合同理事会・
北海道活動委員会

7月 23日～25日 第 13 回無電柱化推進展
東京ビッグサイト東展示棟



大盛況の無電柱化推進展無電柱化ミニセミナーの様子

7月 30日 国交省、R7-1 無電柱化推進技術検討会

8月 1日 夏期インターン生受入れ開始(～9月末)

8月 7日 東京理事会・合同理事会・東京活動委員会

8月 8日 広島無電柱化勉強会

8月 28日 北海道活動委員会



9月 4日 国交省、無電柱化面整備 WG

9月 5日 国交省、R7-2 無電柱化低コスト WG

9月 10日 国交省、R7-1 民間 SWG



9月 17日 国交省、R7-2 無電柱化推進技術検討会

9月 18日 合同理事会・東京理事会

9月 22日 第 11 回全国技術委員会 OSAKA



9月 26日 沖縄活動委員会

10月 1日 国交省、R7-2 無電柱化推進のあり方検討委員会

10月 16日 無電柱化街並み見学会

八王子みなみ野シティ（東京都）



10月 25日 みんなで考えよう無電柱化 in 有明（国交省の無電柱化の日イベント）



**11月8日 進めよう無電柱化スペシャルトークショウ
— in OSAKA (大阪国道事務所)**



11月4~10日 無電柱化北海道全道一斉パネル展



11月10日 第5回「無電柱化の日」フォト&ムービーコンテスト 結果発表はコチラ



11月11日 「無電柱化の日」セミナー

11月10日は「無電柱化の日」
「無電柱化の日」セミナー
「無電柱化の日」をきっかけに日本の無電柱化を考えよう!
令和元年秋第2回 無電柱化を推進する市区町村長の会勉強会
11/11(火) 15:00~17:10
日本みち研究所 分室

講演者プロフィール

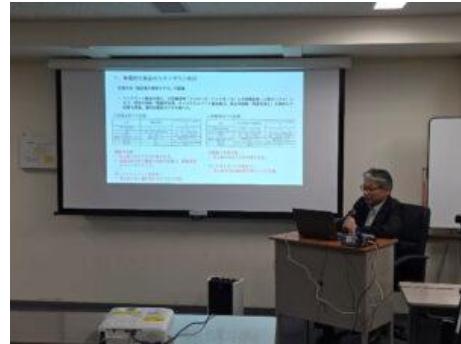
内山 勝志 様
北海道電力配電部構造課
主な経歴：1991年、北海道電力入社。主に架空線工事、地下化工事、新規開拓工事等の監修業務。現在は、主に地下化工事の監修業務。また、新規開拓工事の監修業務も担当。また、新規開拓工事の監修業務も担当。
内山 勝志 様
北海道電力配電部構造課
主な経歴：1991年、北海道電力入社。主に架空線工事、地下化工事、新規開拓工事等の監修業務。現在は、主に地下化工事の監修業務。また、新規開拓工事の監修業務も担当。

**11月13日 東京理事会・合同理事会・
国交省、R7-2 民間 SWG**

**11月21日 無電柱化を推進する市区町村長の会
R7-3 勉強会：下関生涯学習プラザ**



11月28日 第12回全国技術委員会 OSAKA



11月30日~12月21日

ドーンセンター大阪地下1階で NPO の活動紹介パネル展示会



12月3日 沖縄活動委員会

12月4日 東京理事会・合同理事会・東京活動委員会

12月12日 北海道活動委員会

11/21(金)開催

無電柱化を推進する市区町村長の会 R7-3 勉強会

～国土交通省道路局の講演内容を中心に～

11月21日に下関市で行われた無電柱化を推進する市区町村長の会令和7年度第3回勉強会での国土交通省道路局の「無電柱化の取り組み」の講演(同省道路局環境安全・防災課の藤井課長補佐)の内容をポイント解説致します。国交省道路局以外の講演も密度の濃い内容となっています。それぞれの講演の内容は、以下の講演タイトル横に示しているユーチューブ限定動画(リンクを知っている者のみ視聴可能)のリンク先からご確認・ご視聴下さい。

無電柱化を推進する市区町村長の会 令和7年度第3回勉強会

日時：令和7年（2025年）11月21日（金）14:00～17:00

場所：下関市生涯学習プラザ2階学習室1・2

会場参加者：40名、オンライン参加者：42名

■ 当日の予定 ■

会長あいさつ 鎌倉市 松尾 崇 市長

開催地市長あいさつ 下関市 前田 晋太郎 市長



松尾 崇 首長会会長(鎌倉市長)の挨拶

【講 演】

「国土交通省における無電柱化の取り組みについて」

<https://youtu.be/TAJTutnuJYc>

国土交通省道路局環境安全・防災課 課長補佐 藤井久暢 様

「市街地開発事業等における無電柱化の取組について」

<https://youtu.be/cP9QsqI3mLU>

国土交通省都市局市街地整備課 市街地防災整備係長 金井雄太 様

「中国地方整備局における無電柱化の取り組みについて」

<https://youtu.be/Q2X7s4u9KCQ>

中国地方整備局道路部 部長 大江真弘 様

「宿場町の無電柱化へのチャレンジ」

https://youtu.be/OTR_KIKKOeg

岡山県矢掛町建設課 課長 渡邊孝一 様

「開発事業に伴う無電柱化整備事例」

<https://youtu.be/-Dha0zvjWSk>

広島県廿日市市建設部都市活力デザイン課 課長補佐兼係長 阿部充弘 様

「無電柱化の新たなスピードアップ工法「トレンチャー工法」の紹介」

https://youtu.be/WE95Xcz_WFs

国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所地域景観チーム 主任研究員 大部裕次 様

国土交通省における無電柱化の取り組みについて ……国交省道路局……

1. これまでの無電柱化の取組

- (1) 整備の状況等
- (2) コスト縮減の推進
- (3) 事業のスピードアップ
- (4) 占用制限の的確な運用
- (5) 財政措置

2. 次期無電柱化推進計画の策定に向けて

- (1) 防災に関する論点
- (2) 交通安全に関する論点

1. これまでの無電柱化の取組

「1. これまでの無電柱化の取組」では、今年度で進められている国土交通省主催の部会での取組状況をまとめたものです。今回は特に注目いただきたい内容にしぼってご紹介させていただきます。

※書体の異なるアオ文字で示したところは、筆者がコメントしたものです。

■令和7年9月台風15号 静岡県牧之原市内の電柱倒壊状況について■

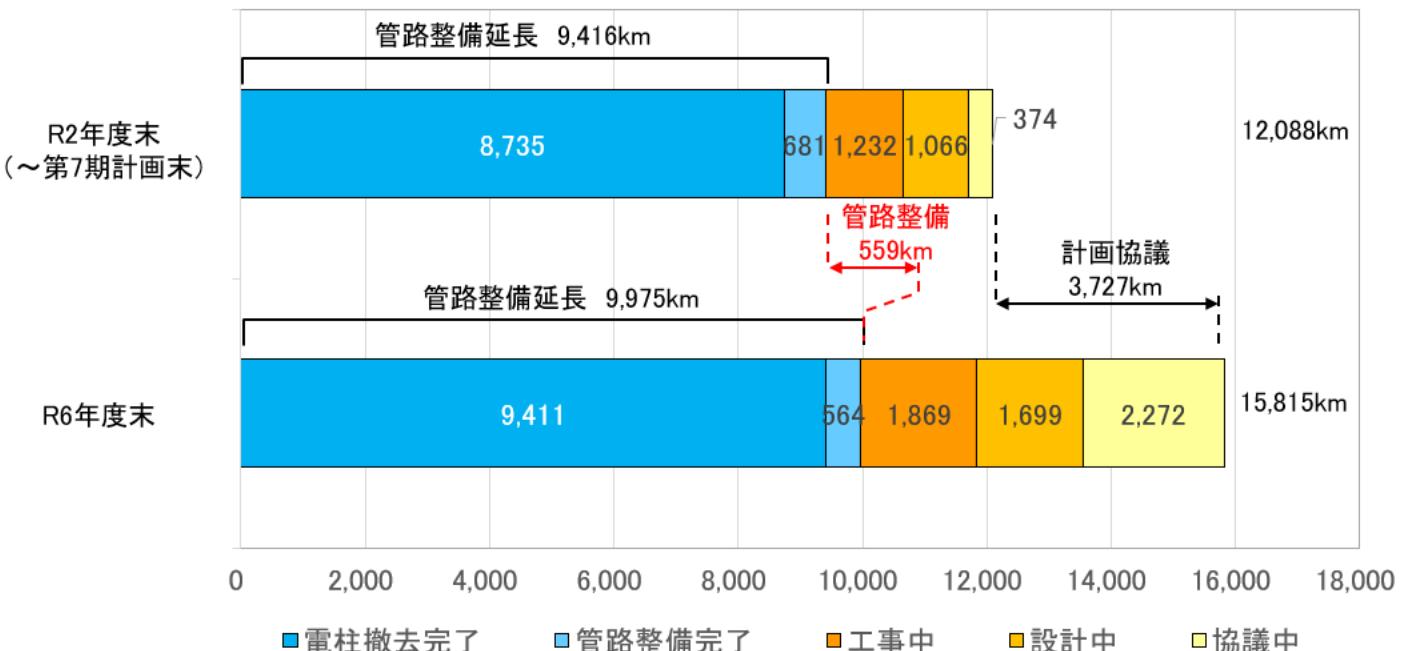
- ・9月5日(金)12:50頃、静岡県牧之原市静波から細江にかけて竜巻が発生。
風速 75m/s(国内最大級の規模)と推定。
- ・今回の竜巻により静岡県牧之原市を中心に79本の電柱が倒壊。
- ・電線管理者において電柱撤去が完了し、倒壊路線の車両通行が確保できたのは、9月7日(日)深夜(23時頃)※。
※山の手幹線通行確保の概ねの時間を中部電力にヒアリング



被災時の牧之原市の倒壊状況（左）と復旧の様子（右）

■無電柱化の進捗状況■

- ・令和6年度末までに、約1万kmの管路整備が完了。
- ・現行計画の期間内(R3～R7)では令和6年度末までの4年間で約559kmの管路整備が完了したほか、約3,700kmで計画協議に着手済み。



■第8期推進計画期間内の管路整備延長■

・現行計画では、「防災」「安全・円滑な交通確保」「景観形成・観光振興」を目的に、それぞれ重点対象を定め整備を推進しており、令和6年度末までの4年間で 559km の管路整備が完了。

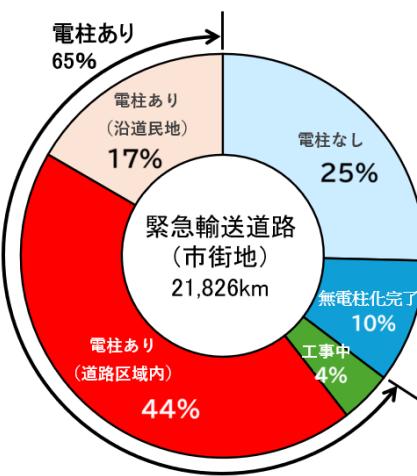
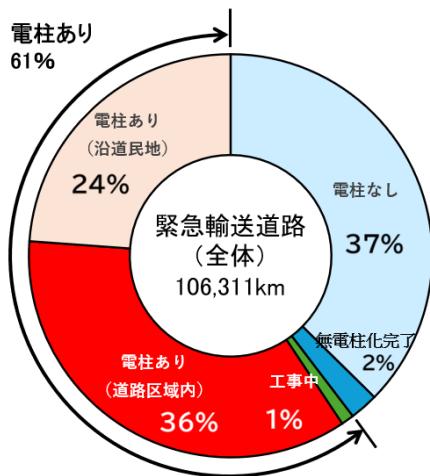


^{*1} 1「2. 安全・円滑な交通確保」及び「3. 景観形成・観光振興」目的と一体的に実施した事業の51kmを含む。

^{*2} 1「1. 防災」及び「3. 景観形成・観光振興」目的と一体的に実施した事業の42kmを含む。

^{*3} 1「1. 防災」及び「2. 安全・円滑な交通確保」目的と一体的に実施した事業の16kmを含む。

■緊急輸送道路における無電柱化の状況■

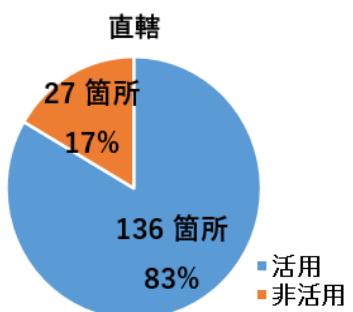


・緊急輸送道路を中心に無電柱化を進めているが、全体で約61%、市街地で約65%の区間で電柱が立地しており、工事中区間は市街地においても4%に過ぎない。

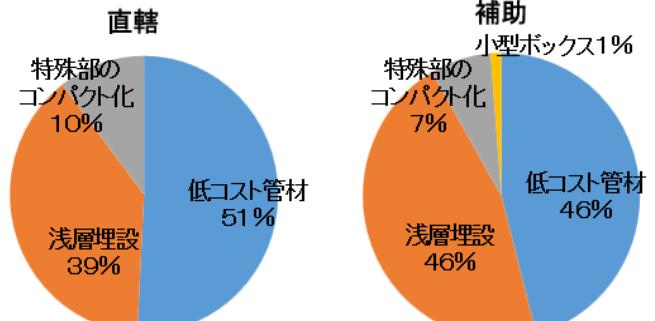
緊急輸送道路でさえ、左のグラフのような数字であると考えた場合、上の重点整備にあたる「安全・円滑な交通確保」「景観形成・観光振興」がそれぞれ 57km、41km にとどまっているのもうなづける。

■コスト縮減技術の活用状況■

【新規事業化時のコスト縮減技術の活用状況】



【活用されたコスト縮減技術の内訳】

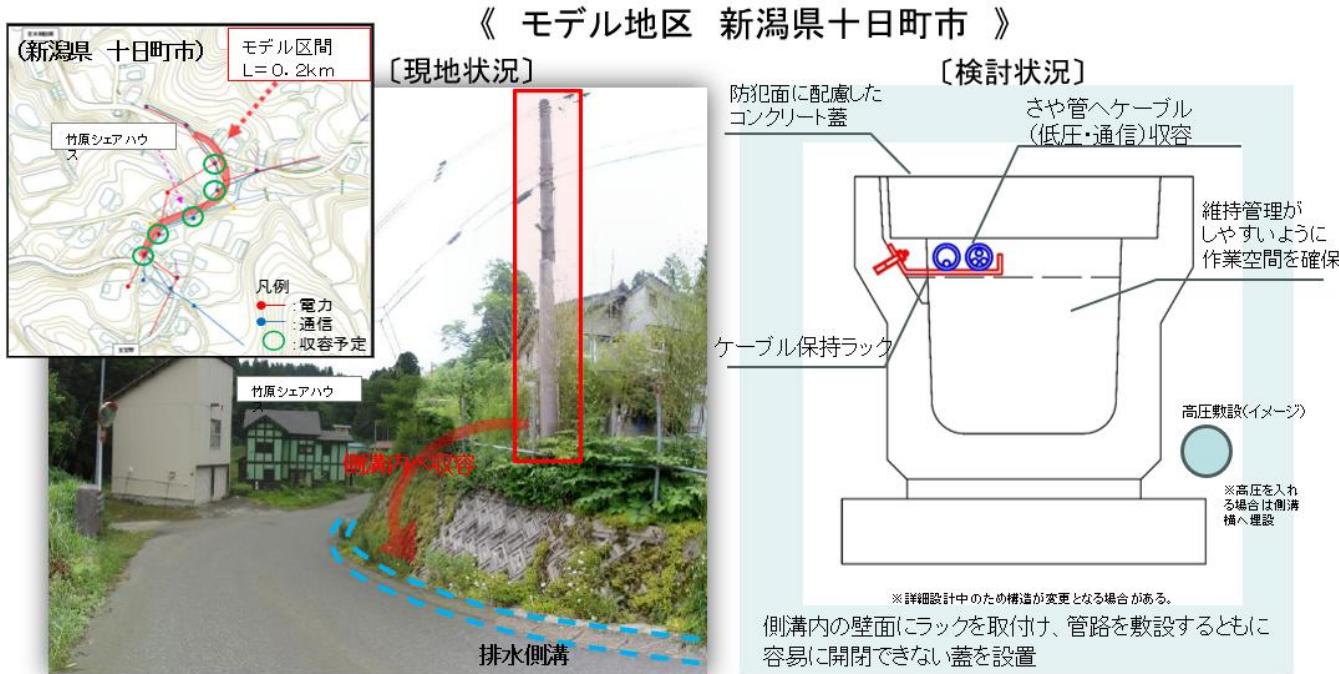


※令和2年度以降の新規事業着手した1,380箇所を対象にコスト縮減技術の活用状況を調査。

- ・直轄事業は83%、補助事業は49%でコスト縮減技術を活用。浅層埋設、低成本管路材の活用事例が多く、概ね1割程度のコスト縮減となっている事例が多い（国土交通省調べ）。

■排水側溝の現場導入に向けた検討の方向性■

- ・モデル地区における設計、工事を進め、さや管の防水性や耐力、ケーブルの電圧階級など、設計・施工上の課題などを整理し、対応を検討する。
- ・得られた知見をもとに、排水側溝を活用するにあたってのポイントをまとめた手引きを作成していく。



■さらなる低成本に向けた地上配線の検討■

- ・さらなる低成本としての地上配線工法について、地上に施設する高圧電線路のうち、山地であり、車両の往来が無く、人が常時通行することを想定しない、限定した場所への施設に必要となる保安要件について調査を実施。
- ・この調査を踏まえ、必要な保安要件に関し、令和6年8月26日に日本電気技術規格委員会(JESC)規格を新たに制定。令和7年3月17日の電力安全小委員会において「電気設備の技術基準の解釈」への規格の引用について審議し了承。

<JESC規格>



<地上に施設する電線路のイメージ>



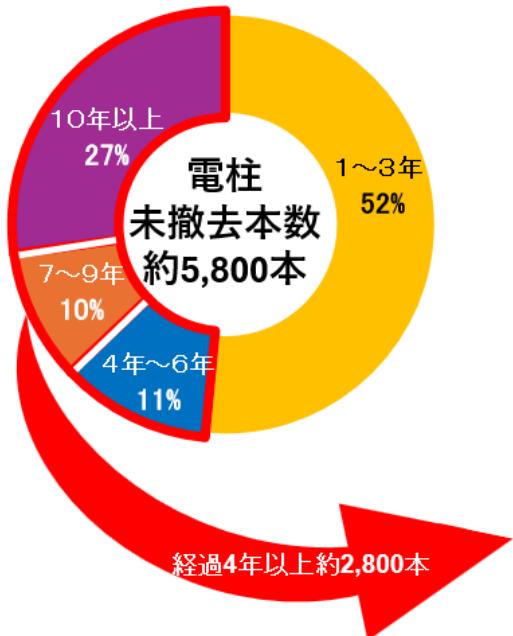
排水側溝に関しては、電気ケーブルは、水に弱く、かつ作業時での感電などの危険が否めないのでとの意見あり。近年頻発するゲリラ豪雨などによる水量増への懸念がある。地上配線は、電線保護管（しかも高圧）のみで大丈夫か？ 山火事とかの恐れは？電線が断線するほうがリスクが高いか？

■管路整備後の電柱未撤去の状況■

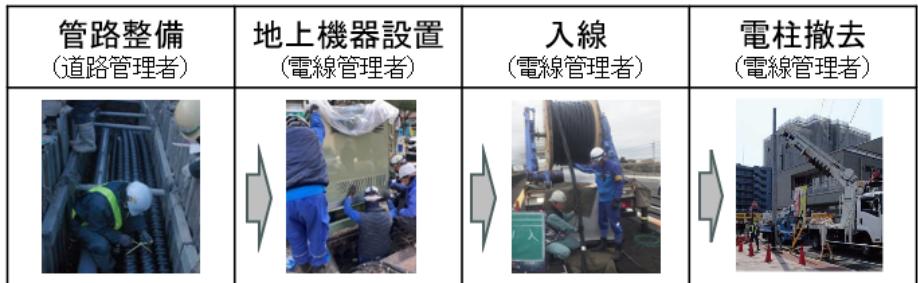
- ・道路管理者が管路整備後、電線管理者により入線・電柱撤去作業を実施するが、関係者間の調整、合意形成が難航しており、電柱撤去までに時間を要する事例がある。
- ・道路管理者・電線管理者が協力し、早期の電柱撤去を進めるとともに、電柱撤去の迅速化に向けた取組が必要。

[図1]

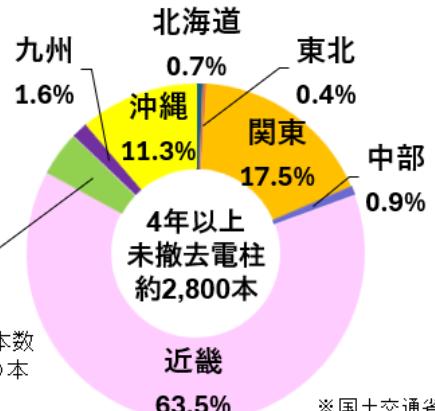
■電柱未撤去の経過年数 (R6年度末時点)



■入線・電柱撤去の流れ



管路整備後4年以上 未撤去電柱の地域別本数



※北陸と四国は未撤去がない
※グラフに示す地域ブロック毎の未撤去本数には、地方整備局管内の地方自治体の本数も含む。

※国土交通省調べ

■管路整備後の電柱撤去の迅速化に向けた検討の方向性■

- ・電柱撤去の迅速化に向けて明らかとなった課題を踏まえ、以下の取組により速やかな電柱撤去を進める。
 - 電柱撤去を考慮した「工事ロットの設定ガイド」の作成
 - 「合意形成の進め方ガイド(案)」に電柱撤去の円滑化に関する観点を追記
 - 事業化段階での既設占用制限の適用
 - 本体管と引込管の同時施工などの工程の見直し 等

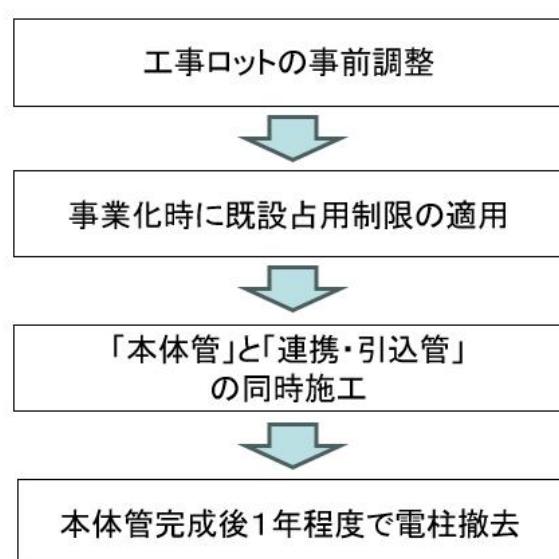
[図2] 【電柱撤去の迅速化に向けたプロセスの改善】



電線共同溝合同調整会議等を活用した関係者との調整



本体管と連携・引込管の同時施工



速やかな電柱撤去

計画と実行のちぐはぐさが露呈したかたちとなっている。
検証結果をもとに速やかな改善をはかっていただきたい。

2. 次期無電柱化推進計画の策定に向けて

「2. 次期無電柱化推進計画の策定に向けて」に関しては、今後、「防災」と「交通安全（良好な歩行空間の確保）」に比重を置いた無電柱化の政策をとることが予想される内容となっています。この二つは、私たちの生活や生命に直結している場所です。無電柱化することで利便性や防災が高まれば、市民の理解も得やすくなるのではと期待したいです。誌面の都合上、多くのページを割かれた講演資料の中から主なものをお紹介させていただきます。

(1) 防災に関する論点

■防災に関する目標の考え方■

- ・災害への備えを確実にするため、無電柱化の目標を「着手」から「整備完了」に変更するとともに、引き続き計画的に無電柱化を進めるため、区間と整備手法について関係者が合意した「計画延長」を目標として設定する。
- ・また、切迫する巨大地震に備えるため、防災の観点で30年程度の中期的な目標を設定し、緊急輸送道路等の無電柱化を加速させる。

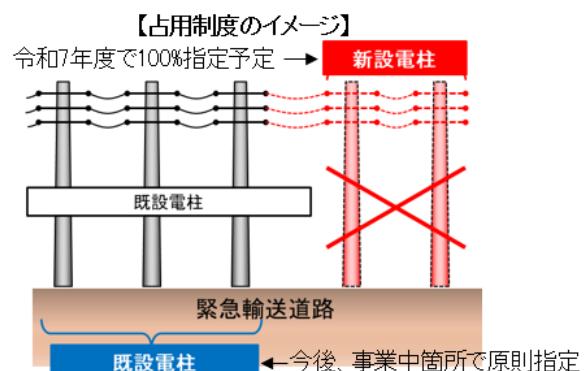
【防災に関する指標(案)】

現計画(R3~R7)	次期計画(R8~R12)
<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none">・電柱倒壊リスクがある市街地等の緊急輸送道路の無電柱化着手率	<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none">・優先整備区間における無電柱化計画策定率・優先整備区間における無電柱化整備完了率・第一次緊急輸送道路の市街地等における無電柱化計画策定率・第一次緊急輸送道路の市街地等における無電柱化整備完了率

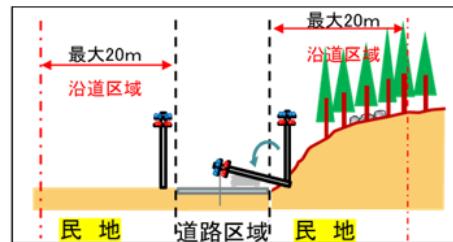
■緊急輸送道路における電柱の占用制度の更なる活用■

- ・「新設電柱の占用制限」について、緊急輸送道路は、令和7年度で100%を指定予定。
- ・管路整備と合わせて着実に抜柱し、道路閉塞のリスクを取り除くため、事業中区間において、全て既設電柱の占用制限を指定する。
- ・道路閉塞防止の観点から、優先整備区間においては沿道民地に新たな電柱が立たないよう、関係者と調整のうえ、沿道区域届出勧告制度を積極的に適用する。

【占用制度等の運用イメージ】



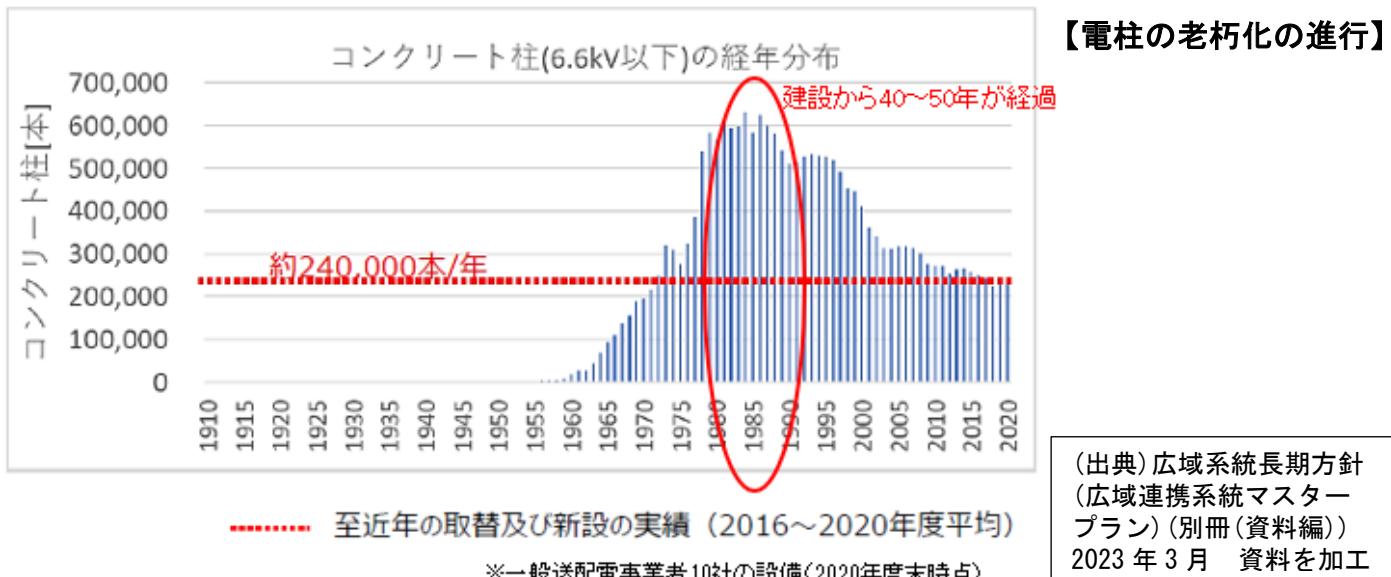
【沿道区域届出対象区域のイメージ】



※今後、優先整備区間で積極的に適用

■老朽化した電柱の更新に合わせた無電柱化の推進■

- ・令和7年1月に発生した埼玉県八潮市での下水管路の破損に起因した道路陥没事故を踏まえ、占用物件の適切な維持管理の重要性が増大し、占用物件の安全性の確認を求めるとした。
- ・高度経済成長期に整備された多くの電柱において、老朽化が進行。
- ・今後、老朽化の状況も踏まえて無電柱化を検討するなど、効率的に無電柱化に取組む。



■道路区域外にある電柱の対応事例■

- ・防災の観点から特に重要な優先整備区間においては、道路区域外の電柱について、沿道状況を踏まえ、電線共同溝方式や要請者負担方式、単独地中化など、多様な整備手法を用いて無電柱化を進めるなど、災害に強い道路空間の確保に努める。

(2)交通安全に関する論点

■通学路の交通安全対策の取組状況■

- ・令和3年6月に千葉県八街市で発生した小学生5名が死傷する交通事故を受け、全国の小学校の通学路を対象とした合同点検を実施し、令和7年3月までに対策を実施済。
- ・通学路を含めた生活道路においては、最高速度30km/hの区域規制と物理的デバイスとの適切な組合せにより交通安全の向上を図ろうとする区域を「ゾーン30プラス」として設定(令和6年度末:263地区)し、世代別の事故特性を踏まえ、データや新技術を活用し、生活道路の面的対策を更に強化。

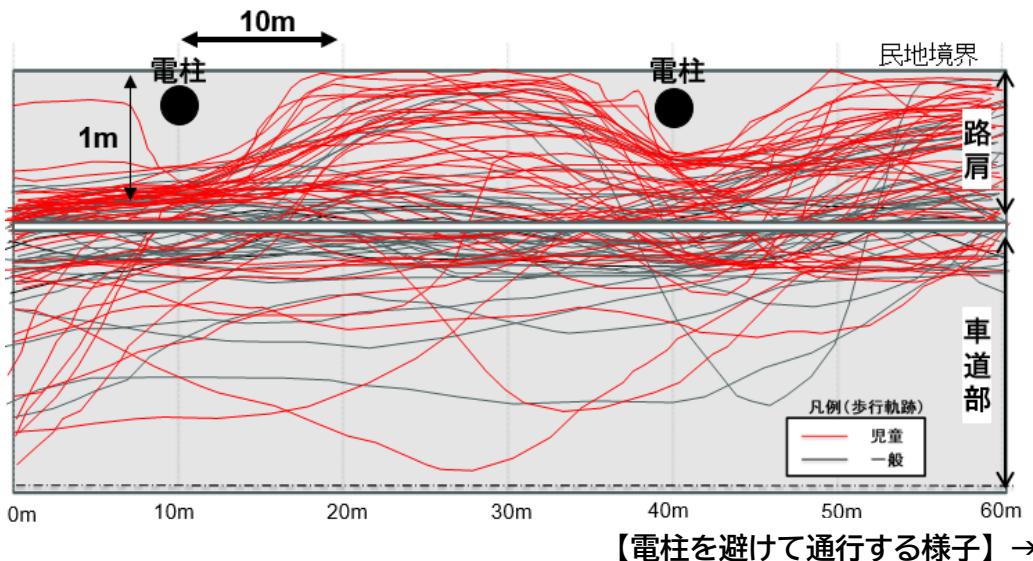
【ゾーン30プラスの概要】



■電柱に起因する通学路の安全上の課題■

- ・児童等の歩行軌跡を調査したところ、電柱を避けて歩くことにより、電柱の前後約10mにわたり、歩行空間が約1m狭められていることが分かった。
- ・そのため、歩道が狭い道路や歩道がない道路では、児童が電柱を避けて車道にはみ出して歩くこととなり、事故の危険性が高くなる。

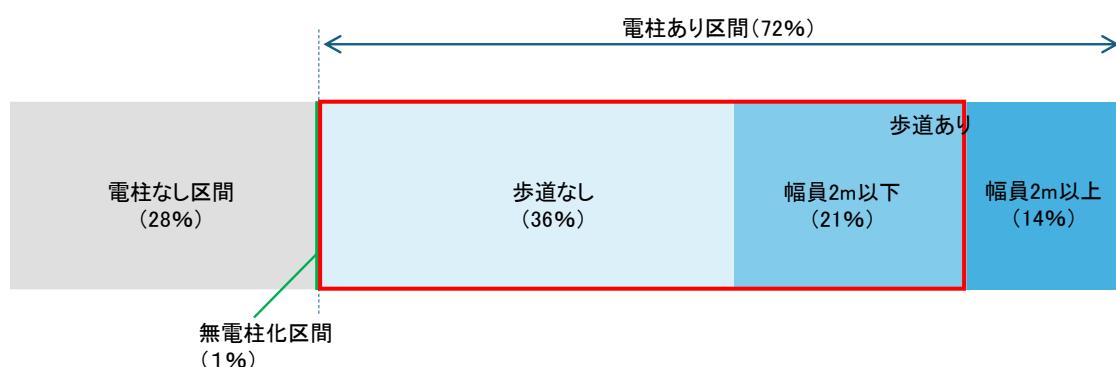
【歩行者(児童等)の軌跡】



■通学路における無電柱化の状況■

- ・ゾーン30プラス(全国で263箇所)の区域内にある通学路の電柱の立地状況を調査したところ、約7割の区間で電柱が立地。
- ・そのうちの約8割は歩道が狭い、あるいは歩道がない通学路となっており、歩行空間の安全性向上のため、重点的に無電柱化を

ゾーン30プラス区域内の通学路（計280km）



■電柱に起因する特定道路の安全上の課題■

- ・車椅子が安全にすれ違うには幅員2m以上の歩行空間を確保する必要があるが、歩道幅員が2mあっても電柱がある場合には、有効幅員が狭くなり、円滑な移動の妨げになっている。

【歩行者の通行阻害】

【車椅子を避けて車道へはみ出す歩行者】



【歩行者と車椅子のすれ違い阻害】



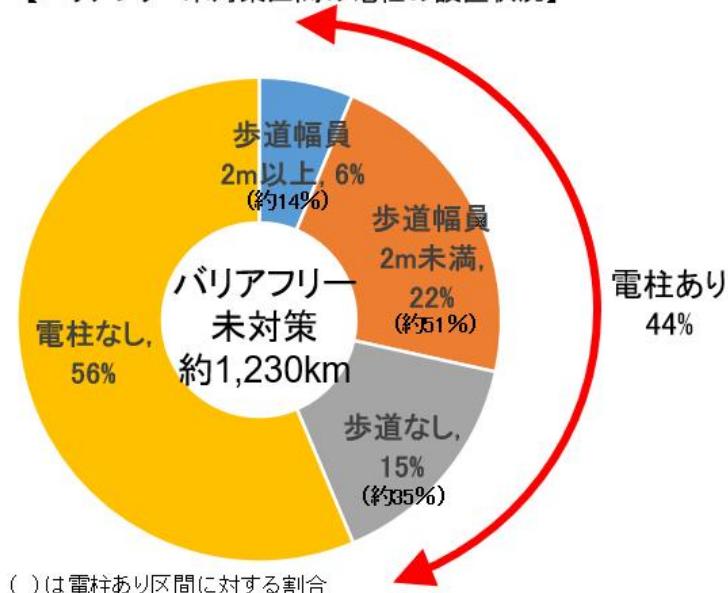
【お年寄りや障害者等の声】

- ・ベビーカーを押している時、歩行者と対面し電柱が邪魔して進めませんでした。電柱一本でも歩道はすいぶん狭くなります。(出典①)
- ・電柱により、お年寄りが車道にはみ出し、非常に危険な思いをした事がある。(出典②)
歩道に電柱があり、傘をさして歩道を歩けない。(出典②)
- ・狭い道路、狭い歩道に電柱が数多くあり、車椅子利用者のみならず、健常者をも危険にさらしています。(出典③)
出典:①件名「多摩市無電柱化推進 計画(素案)」のパブリックコメント、令和2年4月、②佐野市バリアフリー基本構想、参考資料、平成29年3月、③平成26年 ユニバーサルデザイン推進計画(第2期)素案のパブリックコメント結果

■特定道路における無電柱化の状況と重点的に進める区間■

- ・特定道路におけるバリアフリーの対策が行われていない区間のうち、約44%に電柱が建っており、歩行空間を狭めている。
- ・このうち、約14%の区間では電柱の撤去により、車椅子がすれ違うことの出来る幅員2mを確保出来る区間となっており、これらの区間を重点的に整備する。
- ・また、その他の区間についても歩道整備等と合わせて無電柱化に取り組み、安全な歩行空間の確保に努める。

【バリアフリー未対策区間の電柱の設置状況】



【電柱撤去により幅員2.0m以上を確保できる事例】

